

# 意見調書

## 1. 具体的な取組に対する意見

### 意見 ①

連携事業の重層化を図り、今構想の奥行きと幅を確保し、その実動性を担保すべき。  
 〇〇の町村の顔（個性）はどこにあるのか？自身においては、全く見えない。

### 考え方

自立圏構想を介し圏域が一丸となって取組む共有課題へのスクラム（共通連携事業）と、今構想の中で、各々の町が注目してもらいたい、個別具体・単独提起の事案（選択連携事業）という、2本立てで構想を進める。常に2枚重ねの連携事業を意識しながら、8分の1の明確な役割分担を自覚することにより、全市町が圏域運営の担い手という体制を、早期に確立できる。

### 上川中部定住自立圏域共生ビジョン

共通連携事業	生活機能の強化 結びつきやネットワークの強化 マネジメント能力の強化			
選択連携事業	上川町	豊別町	比布町	→ 穂高・当麻・東川・東神楽
	圏域観光資産への取組み	圏域経済資産への取組み	圏域教育資産への取組み	

### 理由

会合の光景が、旭川市と近隣7町が対座する「対面式」として映り、今構想が担保する、「郷土の円卓」となっていない。

意見 ②

閉鎖戦略の有用性を強く認識し、地域運営の主導権を的確に捉えた戦略を、8市町で積み上げて行くべき。

考え方

旭川市とのつながりを強め、その連携強化により、域内活性化の取組みを進捗させることが、今構想の「入口戦略」ならば、近隣町が旭川なしで、どう生き残るかが、その「出口戦略」と受けとめる。郷土の現況に鑑み、強く将来を見据える姿勢を貫くならば、両者を併走させる圏域運営に、我々が迫られていることにも気づくはず<sup>1</sup>。

理由

自身においては、既に地域運営のバトン（主導権）は、旭川から近隣町（道北農村域）へ移行したものと認識し、国内を代表する『縮退都市』として、本市を捉える。今構想において、近隣が、あてにしている旭川市は、もはやあてにならず、「7+1」という内側の目だけではなく、「8」という外側の目を持って臨まなければ、全てが、立ち行かなくなる。地域運営において、前者は高いリスクを伴う体制であり、未然にリスク回避の併走策を、両サイドで推し進めるべき。

<sup>1</sup> 添付資料 道新 H16. 8. 1 朝刊 「第二の都市旭川の危機 揺らぎ始めた支店経済」 浜田康行氏（現札幌国際大学学長・北海道総合開発計画審議会座長）

意見 ③

農村域において、**町界を超えたコンパクト**の取組を、今構想の中で強く意識すべき。

考え方

コンパクト（量的に小さくなるのではなく質的に充実させた郷土）という部分においては、農村域が都市サイドに先行しているものと思われ、近隣7町に、郷土における持続的発展可能性を見て取る。「崩れ始めれば都市の方が遥かにもろく、最後まで生き残るのは農村」という見極めの下、郷土と向き合う自身においては、外輪に、次のステージにおける質的充実（第2段階）を、今構想の中で、しっかり捉えてほしい。

理由

第1段階 各町域内におけるコンパクト

第2段階 近隣7町間におけるコンパクト 「農から描くコンパクト」

第3段階 両サイドとの関係を成熟させたコンパクト 「圏域運営のスマート・スルー」  
(札幌圏との関係を含む)

第1段階を更に推し進めながら、第2段階を捉え、第3段階は次世代の選択に委ねる（真のパートナーとして、我々にふさわしいのは、旭川か札幌か）。

## 2. その他 第2期懇談会への要望と提案

### 要望 ①

「都市と農村」という、二者択一的な捉えではなく、郷土が誇る、もう1つの地域特性として、**山村（中山間域）**を、克明に捉えてほしい。

### 要望 ②

自立圏同士のつながり、上川中部圏域と道央圏（札幌）との結びつきをどう模索して行くのか、**「旭川で何を賅い、札幌で何を補完のか」**の議論を、深めて行ってほしい。

### 要望 ③

**「広域圏行政の有用性を、文語ではなく、口語」**やさしく論ずることに、努めてほしい。

### 提案

開催の会場を**「郷土の円卓」**として、可能な限り、圏域内町村で回してみたいかがで  
すか？ 例えば、春に比布町、夏に愛別町、秋に東川町、冬に旭川市。

## 3. 圏域の将来像に対する意見

### 「大雪山ラウンドテーブル構想」<sup>2</sup>

中華料理の円卓を大雪山に備え付けます。とても大きなテーブルなので、4つのモーターが必要です。我々、上川中部圏域は、まぎれもなく、その一翼を担います。このモーターは水力発電で、石狩川・天塩川水系の豊富な水を動力とします。北見・オホーツク圏は木材チップによる火力発電、帯広・十勝圏はバイオエネルギー、富良野・美瑛圏は丘を越えて流れる風力発電です。やがて、この円卓を介し、壮大な「ばくりっこ」が始まります。

<sup>2</sup> 平成26年度予定分 第5調査報告（最終報告）

「ひとつの大切な国、50の美しい国 3次元的地域運営と地域の意志の明確な表明」